

(第十九部)

第一百八十九回

参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会会議録第五号

平成二十四年三月二十六日(月曜日)
午後一時開会

三月二十三日
委員の異動

辞任

徳永 久志君

補欠選任

大野 元裕君

出席者は左のとおり。
委員長 理事

岸 信夫君

委員

相原久美子君
外山 斎君
猪口 邦子君
義家 弘介君

石橋 通宏君

大野 元裕君

郡司 彰君

今野 東君

田城 郁君

徳永 エリ君

島尻 安伊子君

長谷川 岳君

橋本 聖子君

木庭健太郎君

江口 克彦君

紙 智子君

山内 德信君

参考人 第一特別調査室
学部教授 慶應義塾大学商
中条 潮君
宇佐美正行君
参考人 沖縄及び北方問題に関する特別委員会会議録第五号 平成二十四年三月二十六日 [参議院]

株式会社カル
ティペイト代表
取締役社長
北 谷 町 長 野国 昌春君
梨香君

北 谷 町 長 野国 昌春君
梨香君

本日の会議に付した案件

○沖縄振興特別措置法の一部を改正する法律案

(内閣提出、衆議院送付)

○沖縄県における駐留軍用地の返還に伴う特別措

置に関する法律の一部を改正する法律案(内閣

提出、衆議院送付)

○委員長(岸信夫君) ただいまから沖縄及び北方

問題に関する特別委員会を開会いたします。

委員の異動について御報告いたします。

去る二十三日、徳永久志君が委員を辞任され、

その補欠として大野元裕君が選任されました。

○委員長(岸信夫君) ただいまから沖縄及び北方

問題に関する特別委員会を開会いたします。

委員の異動について御報告いたします。

去る二十三日、徳永久志君が委員を辞任され、

その補欠として大野元裕君が選任されました。

○委員長(岸信夫君) 沖縄振興特別措置法の一部

を改正する法律案及び沖縄県における駐留軍用地

の返還に伴う特別措置に関する法律の一部を改正

する法律案の両案を一括して議題といたします。

本日は、両案審査のため、参考人として慶應義

塾大学商学部教授中条潮君、株式会社カルティベ

イト代表取締役社長比嘉梨香君及び北谷町長野国

昌春君に御出席いただいております。

この際、参考人の方々に本委員会を代表して一

言御挨拶を申し上げます。

本日は、御多用中のところ本委員会に御出席を

いただき、誠にありがとうございます。

本日の議事の進め方でございますが、まず、参

考の方々からそれぞれ十五分以内で御意見をお

うのが私の一番言いたいことです。

述べいただき、その後、午後三時までをめどに委員の質疑にお答えいただきたいと存じます。

また、御発言の際は、挙手していただき、その都度、委員長の許可を得ることになつておりますので、御承知おきください。

なお、参考人及び質疑者の発言は着席のままで結構でございます。

それでは、まず中条参考人からお願ひいたします。中条参考人。

○参考人(中条潮君) 慶應義塾大学の中条と申します。よろしくお願いいたします。

座させていただいてお話をさせていただきま

す。中条参考人。

○参考人(中条潮君) 慶應義塾大学の中条と申します。よろしくお願ひいたします。

座させていただいてお話をさせていただきま

す。中条参考人。

(九七)

今日申し上げたいのは、一つは琉球王国の独立、

二つ目は空港民営化による沖縄、石垣、宮古の活

性化、これを独立につなげていく。といいまして

が国際線になります。そこにどんどん新しい運賃の安い航空会社が入ってくるということは可能になります。

さらに、今日もう一つお話をすることがあります。空港の民営化、これを本土に先駆けて実施する。二十年間遅れしてきた日本の空港民営化政策ですが、ようやく国交省もこれを真面目に考え始めました。これを一番最初にやるということが大事なわけです。既に仙台は復興のために民営化を考えているようありますけれども、一番最初に民営化をやるということが、これがその先駆けとなることが沖縄の振興のためには私は大事だと考えています。

二つ目の話題が、この空港民営化を活性化の核にしましようということですね。空港を整備してもらえば地域が発展します、そんな考え方ではもうこれから世の中はやつていけません。地域の自立的発展が航空需要を生み出すんだということです。多くの人たちが間違つて考へて考へているのは、社会資本を整備すれば地域開発が行われる、そういう考え方です。しかし、この考え方はこれまでずっと失敗してきました、どこの地域でも。そうではなくて、経済を自立させねばならない。私は付いてくる。そのためにはまず空港ビジネスの発展を地域経済独立の先駆けとしていく。

これ、別に空港でなくともいいんです。いろんなことについてそれは可能となると思います。この後でお話をいただく北谷町長さんのお話も比嘉さんのお話も、私はざっと見たところ、こんな形で、いろんな形で使えると思っています。私は空港について今日お話をしているだけのことあります。

御承知のとおり、那覇空港千五百万人のお客様がスローも、全てその国から見て外資が運営する民営の空港です。ターミナルビルだけではあります。滑走路から全て民間の会社が運営しています。世界の趨勢は地方空港も民営化の趨勢。例えば、ブリストルインター・ナショナルというイギリスの空港ですけれども、この空港は、民営化前の一九九七年に百四十万人のお客さんがいました。ほぼ石垣よりもちょっと少ないくらいのお客さんの数です。これが民営化後、そして外資に経営を任せ、四倍の五百七十万人まで飛躍しました。しかも、この空港は、石垣のように那覇との間に路線があるというようなそういう空港ではないんですね。ロンドンとの間の路線があります。それでもここまで発展することができたわけです。空港経営のプロを世界から集めてきたからなんです。民営化によるもうける意識の向上ということを是非考へいただきたい。利用者の便益に資するということは、すなわちもうけるということにはかならない。ニーズに対応していくない空港はもうかりません。

これまでのいわゆる陳情マーケティング、政治的な力でもってお客様を来てもらうようにお願いをする、着陸料を安くするようにお願いをする、そういう形ではなくて、商業的にいかにすればこの空港にお客さんが来てくれるかということを、その発想を変えていく、これが空港民営化の基本的な考え方であります。

したがつて、空港の経営はプロに任すべき、もつと端的に言えれば、民間に売りましょうということになります。そして、外資も積極的に導入をしましようということです。それによつてブリストルインター・ショナルのように四倍までお客様を増やす努力が発生します。収入を一割増やせば優等生になります。

残念ながら、那覇空港は民間の用地を使っておりますので、この賃借料が非常に高いので空港の中では割と状況は悪いと言われておりますけれども、それでも十分に那覇空港は自立することはできるということをまず考えていただければと思います。

次に、ここで北海道の空港の収支と書いておりましたが、これなぜこんなものを出しているとしても、例えばブリュッセル千七百万、コペンハーゲン二千万人のお客様がいる空港です。

御承知のとおり、那覇空港はアジア有数のハブ空港で、運営する。航空系の施設、すなわち滑走路と、それから非航空系の施設、商業施設を一体的に経営するということが大事です。さらには周辺開発と空港経営を一体的に行う。もうけようとするか営むことと周辺整備との一体的な経営が必要になります。

世界の空港は、那覇空港、今五十一億ぐらいの赤字になっています。しかし、商業系の部分は十三億から十六億の黒字です。これで一定程度に経営をすれば、まず赤字は三十八億ぐらいであるというようなそういう空港ではないんですね。ロンドンとの間の路線があります。それでもここまで発展することができたわけです。空港経営のプロを世界から集めてきたからなんです。民営化された空港は、そうやつて一生懸命企業を誘致していくわけです。それをやってもらうためには周辺整備との一体的な経営が必要になります。

世界の空港は、那覇空港、今五十一億ぐらいの赤字になっています。しかし、商業系の部分は十三億から十六億の黒字です。これで一度もやや小さいくらいの空港ですけれども、ここは燃料税分を引き上げて使用料を一割削減すれば黒字になります。そして、稚内、これくらいになるとかなり厳しくなってきます。例えば、これは久米島の空港よりやや小さいくらいですけれども、それでも燃料税分の空港使用料を引上げて費用を三割削減すると黒字になる可能性があるということですね。

ですので、那覇空港はアジア有数のハブ空港に成長可能ですし、石垣、宮古、場合によっては久米島くらいも独立採算、民営化が十分に可能です。しかし、是非考へていただけたいのは、そこの中でもコストを掛け過ぎているということはな

いだろうかという点です。

イギリスには、草地ですね、草、草地の飛行場は結構あります。波打ち際で、波が来る前に離着陸するという空港もあります。飛行場に対してもコストを掛け過ぎているのではないか、むしろもつとほかにお金を掛けるべきところもあるのではなかつた点については、後ほど具体的な事例をいろいろと比嘉さんからお聞かせいただ

以上で私のプレゼンテーションを終わりにいたします。

どうもありがとうございます。

○委員長(岸信夫君) ありがとうございます。

次に、比嘉参考人にお願いいたします。比嘉参考人。

○参考人(比嘉利香君) では、ちょっと準備をしていただく間に。今日はこのような機会をいただきました。ありがとうございます。株式会社カルティベイトの比嘉と申します。では、よろしくお願いいたします。

私は、エコツーリズムの活動、そして離島活性化のお手伝いを始めて十五年になります。今日、こうして国会で、参議院の先生方の前で、小さな島の声、そして子供たちの置かれている状況を直接お話しさせていただく機会をいただきましたことを心から感謝申し上げます。どうぞよろしくお願いします。(資料映写)

それでは、この図は、皆さん何度も御覧になつてゐるかと思いますが、那覇を中心とした同心円です。二千キロの間にアジアの主要都市が入るというふうにこの図でお分かりになるかと思いますが、この五百キロの円、五百キロの円の直径は一千キロです。この一千キロの円をちょっとひずませて、東西を四百キロにした範囲の中に沖縄県があります。百六十余りの島々、三十九の有人島、そして沖縄本島がございます。

沖縄県の那覇市と大阪市を重ねた同心円です。九州から始まつて、このような広域の範囲の中には沖縄の離島が入っています。間は陸路では行けません。海に阻まれていますから、それは飛行機か船でしか行けない。天候に左右されます。冬場になると欠航する率も高い荒波の中を行かなければいけない島々が数多く存在しています。

私が十五年間の間にお手伝いをさせていただいた島々が二十五に上ります。それぞれの島で泊まり、一緒に食べて飲んで、とことん膝を突き合わせて話をしました。小さい離島のことは本当に本音で話を聞かないとなかなか分からないです。私

も那覇に住んでいますから、島の厳しい状況ということを、想像する以上のことは、やつぱり島に行つて話を聞いて飲んだときに実感する、そんな状況です。

沖縄本島から東西南北の端の有人離島に行くためにはどんな距離があるんだろうと考えてみます。ただ直線距離、時間距離、経済距離、それぞれ数字を入れてありますけれども、この時間を掛けて、これだけのお金を掛けしかその島々には行けません。その島々は、例えば歯の検査、あるいは、私も老眼になつてしまましたが、眼鏡をつくるにも那覇に行かなれば、あるいは大きな島に行かなればつくれない。そんな日常の生活の、人間が生活する上で本当に必要なことすらもう島の中で見えないために、費用を掛けて飛行機に乗り、船に乗り、都市部に行つている状況です。

離島振興における課題つて何だろうと考へてみました。

島に行つて、エコツーリズム、つまり島にある宝を探して、それは、自然、文化、歴史の宝、それを掘り起こして磨きながら島の経済活動に意味がある形で商品化するにはどうしたらいいんだろう、そしてそれを残していくためにどうしたらいいんだろうということをお手伝いさせていただこう。そしてそのときにつらいのが実は法としまして、東西を四百キロにした範囲の中に沖縄本島がある島のなかで、その島でお金を落としていただく、そういう制度なんですね。許認可を得るためにたくさんのハードルがあります。

この表に示していまるのは、例えば小さい島に

お客様に来ていただく。個人はいいですけれども、団体さんでツアーを組もうとなつたら大体十

五人ぐらいにならないと合わないんですが、十五

人がバスに乗ろうとする、バスで案内するための許可をもらわなければなりません。それには小

さい島でも三台のバスを持つていなければいけないんですね。三台のバスがじゃ本当に小さい島々

に必要かどうかということをちょっとと北大東村を事例にお話をさせていただきたいと思います。北大東島は三百六十キロ飛行機で行くんですけれども、三十九人乗りのエアコミュニーターが一日一便就航しています。生活路線ですから、観光客が乗るといえば大体十四、五人までです。その観光客の皆さんのがハマユウ荘という二十五室、五十二人宿泊の施設に泊まるというような状況ですが、もうちょっと島のことを説明させていただきま

すと、十一平方キロメートルくらいの大きさです。

そこに五百三十人ぐらいの人々が住んでいます。

基幹産業は農業で、サトウキビです。それ以外に

ジャガイモやカボチャなども作っています。

高校があります。沖縄本島以外に高校がある島は四つだけです。大半の島は高校がないのですが、この北大東もまさにそういうです。子供たちは中学校を卒業すると親元を離れなければいけない。一日一便しか飛行機は飛んでいませんし、高いです。では船で」というと、船は五日に一回しか就航していません。外洋に浮かんでいますから、波が荒れるともう五日のはずが一週間、十日と船が来ません。ですから、なかなかその行き来も難しい。そして今でも、物資も人もクレーンで運んでいます。うねりの中に船が着岸できないですから、たくさんの人たちの荷役作業によって物も人も運ばれてくる、つまりはそれによつて流通のコストもとても高く付いているという島です。年間六千二百人ぐらいいの観光客、これは二年前の数字ですが、そのうち千二百人が観光客です。

さて、この島で三台のバス、必要でしょうか。

路線バスもありません。それから、隣の市町村にバスを貸し出すこともできません。となると、三台がなぜ必要かということをいろいろ国の方々、それから総合事務局の皆様にもお願意してお話を

してありますけれども、給食費は、中学校までどの

子供たちも日本国民ひとしく得られる、食べられ

るものだと思いますが、実は流通コストや小口

トによる単価の高さが離島において大きいです

ね。この補助がないと、離島の子供たちは給食で

すら同じように食べることができないという状況

緩和することができる、それさえできればできるということの証明の一つではなかつたかと思います。

ですから、こうして考へてみると、交通、社会

資本にハンディがあるこの小規模離島を活性化す

るには、法制度の運用や補助金など、その支援策

に自由度というものが求められるというのを実感し

ております。

それから、学校教育の課題について、統いてお

話しさせていただきます。

先ほど、一千キロ、四百キロの海域の中に沖縄本島と三十九の有人島が存在しているとお話ししましたが、陸路でつながつていません。県民の一割が三十九の有人島に住んでいます。高校や病院へ陸路で行くことのできない離島に住む県民といふのは約二万一千人です。全県民の一・五%です。日本国民の一%が沖縄に住んでいますけれども、そのうちの一・五%が病院や高校に車で行けない島に住んでいます。

中学を卒業すると高校に行くために島を出るわけですが、それにおける子供たち、親の経済的負担、そして精神的な負担は大きいです。

経済的な負担は八万円から十万円一人当たり掛か

ります。離島が三五・一%を占める沖縄ですから、

この離島の教育というのは結構大きな問題です。

四、五級のへき地というものは、一級から五級でい

うと五級に行くほど不便です、四、五級の離島と

いうのが沖縄の小規模離島の大半です。二年で先

生方は入れ替わり、毎年三分の二から、多いとき

は五分の四の先生が入れ替わっているという状況

です。

このよう中、一番下に学校給食のことを書い

てありますけれども、給食費は、中学校までどの

子供たちも日本国民ひとしく得られる、食べられ

るものだと思いますが、実は流通コストや小口

トによる単価の高さが離島において大きいです

ね。この補助がないと、離島の子供たちは給食で

すら同じように食べことができないという状況

長崎県が全国で一番離島が多い県です、有人離島の多い県。沖縄県は二番目です。三番目が愛媛県です。この三つの県で何が違うんだろと調べてみましたら、へき地に住む児童生徒の数は長崎も沖縄もほとんど変わりませんが、沖縄が三から五級という不便なへき地に住む離島の生徒数が多いんです。長崎とちょうど対極になります。高校がない島の中学生に通う生徒が、長崎が百十四人に対し、沖縄は七百六十七人と七倍に上ります。これが広い海域に点在する沖縄の離島の状況です。

文化やスポーツ活動における旅費の負担が多いという話は先生方もよくお聞きになつていらっしゃるかと思いますが、沖縄の最西端の与那国島でちょっと調べてみました。そうしましたら、三つの小学校、二つの中学校で一年間に派遣した派遣費が八百万円でした。半分が行政負担、半分が保護者負担です。こういうお金をつくつて子供たちの応援をしているわけですから、八重山で優勝する、那覇で、本島で優勝する、全国大会に行く、だんだん旅費が高くなつていくことを単純に喜べないという状況が離島の中には、御父兄の中には存在しています。

今まで離島のお話をさせていただきましたが、都市部、人口の八割が集中する都市部における子供たちも様々な問題を抱えています。夜型社会、飲酒に寛容な地域性、そして都市化、核家族化によって地域コミュニティーが衰退しているという社会環境が、子供たちを、一人で食べ、一人でうちに過ごし、夜遊びに出るという状況を生み出しています。

様々な状況をこれで、数字で示させていただきましたけれども、教育の施策や支援事業というのは、二元的ではなく、子供たちの状況に合わせて、都市部と離島で全く違います。今課題を抱えているつらい状況に置かれている子供たちと、すくすく育つて頑張っている優秀な子供たちの支援の仕方は全く違います。それらを一元的に語るのでなくして、その状況に合わせた施策が求められて

くると思います。

きいものがあると思います。

良好な市街地を形成していくこと、こういうような課題がございます。

世界に開かれた交流と共生の島、沖縄県二十世紀ビジョン、自ら作つたビジョンの中でうたつておますが、それが沖縄が実現するための可能

性を感じることが最近多くなりました。内閣府が三年間実施しましたアジア青年の家、そして沖縄県で引き継ぎましたアジアユース人材育成プログラム、アジア十三か国、そして十六か国の高校生が三週間にわたりて水環境について学び、そして

交流する中で、言葉、人種、宗教を超えた子供たちの深いつながりが生まれました。

昨年行われた第五回世界のウチナーンチュ大会では、五千二百人が世界から集まりました。沖縄の血縁ネットワークは世界中に四十万人とも言わ

れております。その中で、新しい世代がどう育つ

ていったらしいのかということで、次世代プロジェクトというのが昨年生まれました。学生事務局が主体的に運営した次世代のネットワークは

十ヵ国に上り、今年はブラジルでユース大会を予定しています。予算があるからスタートしたわけ

ではありません。子供たちは、高校生たちが自らで間の年を埋めていきながら世界のウチナーンチュ、若者たちのネットワークをつくつていこう

ということを動き始めています。

この血縁ネットワーク、そして子供たちの活躍、こうして見ていきますと、沖縄という地は、歴史的あるいは地勢的、様々な状況の中で安心して集

い、対話ができる土壤というのが生まれているのではないかというふうに思います。そのような沖縄が持つてある強みを生かしていくためには、この青少年の交流事業、これがずっと続いていくことで若者たちが次代の沖縄、そして日本をつくっていく、それを大人である私たちが支援していく

ことがあります。

今いろいろお話をさせていただきましたが、北谷町はいわゆる米軍キャンプ桑江北側と言つておりますけれども、そこと陸軍貯油施設、俗に言うブースターステーションでございますけれども、この地域を開拓していくことによつて

今回、沖縄の二十一世紀ビジョンに基づいて新しい沖縄振興計画が生まれます。そして、一括交付金という沖縄県にとつてとても有り難い交付金を付けていただきました。これからはこの運用が

課題だと思つております。いかに実態に即した運用ができるのか。今まで申し上げましたように、なかなか難しい状況に置かれている中で、実態に即した運用をするために自由度を持たせて、いただ

くこと、そして既存の補助金ではそぐわない部分に関してもこの一括交付金が活用できること、そして基金を活用することで長期的に子供たちの支援ができるような、あるいは離島の支援ができるような形がつくられること、それを是非ともお願ひしたいと思います。

お願いするばかりではありません。私たち県民も行政と一緒にになって精いっぱい沖縄の未来のために頑張っていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。私はこれまで、子供たちは、高校生たちが自らで間の年を埋めていきながら世界のウチナーンチュ、若者たちのネットワークをつくつていこう

ということを動き始めています。

○委員長(岸信夫君) ありがとうございます。

次に、野国参考人にお願いいたします。野国参考人。

○参考人(野国昌春君) それでは、私の方からまず報告をさせていただきますけれども、お手元に資料も配付をいたしておりますので、参考にしながらやつけていただきたいと思っております。

北谷町は面積が十三・七八平方キロメートルでございます。今日これから述べますキャンプ桑江北側の北側が返還された後もまだ約五三%が軍事基地と、こういうようなかで二万約八千名の住民がそこに住んでいるというようなことになつております。

平成十七年の十月、国指定の要件を満たす伊礼原跡等が確認されたことによりまして、遺跡保存のための当初の都市計画の変更をしておりま

す。

平成十八年一月には、沖縄振興法による特定跡地給付金の支給期間が一年六ヶ月で決定をされました。当該給付金は、平成十八年四月から平成十九年九月までの一年半支給されております。当初のいわゆる原状回復が一年半掛かたためございました。

平成二十年三月には、いわゆる米軍再編で嘉手納以南が大部分が返還をされると、こういうようなことがございまして、国道の拡幅の問題が出てまいりました。そのことと町立の博物館、いわゆる伊礼原遺跡の博物館の計画によりまして区画整理事業の変更が行われております。

良好な市街地を形成していくこと、こういうような課題がございます。

初めに、キャンプ桑江北側の返還の経緯について御説明したいと思います。

キャンプ桑江は、平成八年のSACO最終報告で大部分の返還が合意されております。海軍病院やありますけれども、SACO合意でいわゆる返還が合意されました。

平成十四年三月には桑江伊平地区画整理事業が都市計画決定をされております。

平成十五年三月三十日にキャンプ桑江の北側部分と先ほど言いました陸軍貯油施設部分が米軍から返還されております。返還と同時に、当時の那覇防衛施設局が原状回復を行つたために地権者への土地引渡しを保留しております。

平成十五年の十月、キャンプ桑江北側及び陸軍貯油施設が特定跡地に指定されております。これは、いわゆる返還はされましたが、実際に原状回復というのが一年半掛かりました。したがつて、平成十六年九月三十日に、一年半後の、保留期間を経て施設局から地権者への土地の返還が行われております。

原状回復というのが一年半掛かりました。したがつて、平成十六年九月三十日に、一年半後の、保留期間を経て施設局から地権者への土地の返還が行われております。

平成十七年の十月、国指定の要件を満たす伊礼原跡等が確認されたことによりまして、遺跡保存のための当初の都市計画の変更をしておりま

す。

平成十八年一月には、沖縄振興法による特定跡地給付金の支給期間が一年六ヶ月で決定をされました。当該給付金は、平成十八年四月から平成十九年九月までの一年半支給されております。当初のいわゆる原状回復が一年半掛かたためございました。

平成二十年三月には、いわゆる米軍再編で嘉手納以南が大部分が返還をされると、こういうようなことがございまして、国道の拡幅の問題が出てまいりました。そのことと町立の博物館、いわゆる伊礼原遺跡の博物館の計画によりまして区画整理事業の変更が行われております。

平成二十三年九月には、土地区画整理事業区域の第一回目の使用収益が開始をされております。返還から、返還が平成十五年四月、そしていわゆる特定跡地が切れたのが平成十九年の九月でござりますから、もう八年、九年にわたつてようやく使用収益が開始をされると、こういうことでござります。

次に、桑江北側地区画整理事業の面積について説明申し上げます。当該地は、キャンプ桑江北側が三十八・四ヘクタール、陸軍貯油施設、桑江北側、国道五十八号線沿いを沿道型商業地、地区利用といたしましては、今、北谷町役場があるところから国道五十八号線のところまでを業務地、中央部分においては土地利用が図られる住宅地、そして地区の東側は閑静な住宅地域といたしております。

使用収益が開始される時期は、土地区画整理事業の南側区域が昨年九月から使用収益を開始しております。続いて中央部分が今年の九月から、最後に北側部分が平成二十六年四月というようなりますが、返還から実に十年、十一年というふうな期間がたつていています。

次に、跡地利用に当たつての課題でございましてけれども、キャンプ桑江北側跡地開発を進めていく上で生じた課題としましては、主に三点ござります。資料の五ページを参照していただきたいと思ひますけれども、一つ目の課題といたしましては、返還跡地の原状回復措置が不十分であったことが原因であります。

キャンプ桑江北側では、国が原状回復措置を実施した上で土地が地権者に引き渡されていますけれども、土地の引渡し後においても、基盤整備事業等を進めていく中で、新たな土壤汚染や米軍が遺棄したと思われる廃棄物等が頻繁に確認され、散発的な原状回復措置がされております。こ

の原状回復処理を実施する区域については、基礎整備事業の工事が中断せざるを得ないような状況で、円滑な跡地利用事業の推進に支障が生じております。

資料六から七ページを御参照いただきたいんですけれども、現行制度では汚染等の蓋然性が高いと判断される場合のみ調査及び原状回復措置が実施されておりますが、汚染物質等の把握精度が低く原状回復措置が不十分であると考えております。キャンプ桑江北側の場合も、国によって調査が行われたのは全区域の約10%にすぎませんであります。また、原状回復処理にも期間を要し、汚染物質発見から完了までに三年以上掛かった事例も発生しているため、より迅速な対応が必要と考えております。

五ページに戻つていただきますけれども、二つの課題といたしましては、給付金の問題がござります。キャンプ桑江北側の場合、特定跡地といふこととで三段階に分けて使用収益を予定をいたしております。結果的に北側部分が昨年九月から、最後に北側部分が平成二十六年四月といふふうな期間がたつていています。

次に、跡地利用に当たつての課題でございましてけれども、キャンプ桑江北側跡地開発を進めていく上で生じた課題としましては、主に三点ござります。資料の五ページを参照していただきたいと思ひますけれども、一つ目の課題といたしましては、返還跡地の原状回復措置が不十分であったことが原因であります。

キャンプ桑江北側では、国が原状回復措置を実施した上で土地が地権者に引き渡されていますけれども、土地の引渡し後においても、基盤整備事業等を進めていく中で、新たな土壤汚染や米軍が遺棄したと思われる廃棄物等が頻繁に確認され、散発的な原状回復措置がされております。こ

の減免をしております。トータル的には五千数百万の減免をいたしております。

三つ目の課題としましては、公共用地の確保であります。

駐留軍跡地に義務教育施設や公民館、公園など公共施設を整備する場合は、都市機能の効果的な配置や誘導を行う場合、公共用地を確保しておく必要があります。沖縄県の場合は、その歴史的経緯から、軍用地の地権者がほとんどが私用地でございまして、公共用地を新たに確保することが非常に厳しい状況にございます。これはもちろん地方の自治体の財政の状況もござりますけれども、この公共用地の取得におきましては、地権者の合意を得ながらでございますけれども、跡利用に及ぼす影響が非常にござりますので、影響が大きゅうござりますので、キャンプ桑江北側の場合にも中心市街化に向けて土地を確保しておりますが、町財政への大きな負担となつております。

今後、本島中南部の大規模な基地返還が予定される中、キャンプ桑江南側、海軍病院のところでもございますけれども、この地区の特色として国际人材育成機能の配置を目指しております。世界に通用する観光人材やグローバル人材育成の環境整備を図るため、英語あるいはまた中国語等の教育立地の可能性を今後調査していきたいと考えております。つきましては、当該施設の実現に向けた御支援をお願い申し上げます。

一点目に、駐留軍用地の返還に当たつては、跡地利用制度における課題を踏まえて、今後の跡地利用については次の六点について御配慮をいただきたいと思います。

一点目に、駐留軍用地の返還に当たつては、地権者への土地引渡しの、国によって跡地全域の汚染除去や不発弾撤去等の原状回復措置を実施することを法制化していただきたいということです。また、国による原状回復措置が行われた後に廃棄物や土壤汚染等が発見された場合には、速やかに所要の措置を講じ、基盤整備事業への影響を最小限にとどめるように迅速に対応していただきたいということです。

二点目に、給付金については、支給期間を使用収益開始までの約四年間は跡地に関する収入がございませんでした。また、土地を使用し収益を上げることができない状況においても、固定資産税等は支払をしなければならない状況でございまして、最後に使用収益開始となる、平成二十六年四月を予定しておりますけれども、跡地からの未収益期間が約六年六ヶ月続くことになります。このような交付金の支給が、使用収益開始が途切れることには、地権者の生活の安定に多大な影響をすることになりますので、現行制度の課題の一つと思つております。

三点目には、駐留軍用地及び駐留軍用地跡地における市町村等の公共施設用地の先行取得に対し、国の財政上の支援措置を法制化していただきたいことがあります。

具体的には、国有財産の無償譲渡及び無償貸付

○委員長(岸信夫君) ありがとうございました。

以上で参考人からの意見聴取は終わりました。これより参考人に対する質疑を行います。

質疑の進め方でございますが、まず、各会派大會派順に十分すつ質疑をしていただき、その後は自由質疑といたします。

質疑の時間が限られていますので、質疑者及

び参考人の皆様には、発言はできるだけ簡潔にお願いいたします。

それでは、質疑のある方は順次御発言願います。

○相原久美子君 民主党的相原でございます。

座つてよろしいですか、済みません。じゃ、座つて失礼いたします。

三人の参考人の皆さん、本当に本日はありがとうございました。

まずは、端的に伺いたいと思います。

野国町長のところには、先日、委員会として視察でお邪魔をさせていただきました。本当にありがとうございました。

それで、今幾つかの国の要望というものを挙げていただきました。その中で、移動の手段の部分、交通網の整備ですね、ここのお話がございました、LRTといふことも含めてということであつたわけですけれども、私は、あそこの中で非常に思いましたのは、南部それから中部、北部とそれぞれやはり地域間の格差があつて非常に厳しいといふことからあわせて、離島の問題ということがございました。この移動というか公共交通、これを南部と、今、中部というようなお考えでいらっしゃるのか、若しくは島といふ横断、縦断で考えていらっしゃるのか、その辺について少しお伺いしたいなと思います。

それから、引き続きまして、比嘉参考人にお伺いしたいと思います。

離島のお話を伺いました。確かに離島にとつては非常に厳しい課題がたくさんあるだらうと思っております。それで、今回はかなり大幅な一括交付金ということになつたわけとして、これは御地元の状況がよく分かる県が主体的にこれから配分をしていくということになろうかと思うのです

が、離島のお話を含めて、今沖縄としてどういうところに重点的にこの一括交付金というのを交付していくかとよいのかと、もしお考えがあればお伺いしたいと思います。

それから最後に、中条参考人にお伺いしたいと思ひます。

私たちも、実はこの視察で那覇空港に参りました。

た。貨物のターミナル、これを拝見させていたしました。貨物のターミナル、これを拝見させていたいわけですけれども、参考人のお話の中にございましたように、これから特区、空港にかかる特区を設けて広げていくというお話のようですが、いまますけれども、そななると、やはり滑走路の問題が出てくるだろうと思うのですけれども、これから参考人が考えるこの特区構想の中でいうとど

いいうところ辺りをちょっとお伺いしたいなと思います。よろしくお願いいたします。

○参考人(野国昌春君) 沖縄県は今はもう自動車社会でございまして、一家に二台、三台というのはもう普通の状況になつております。北谷町もいわゆる自動車での移動が多い、あるいはまた商業地への移動が多い、あるいはまた商業といふやうな町の土地に、アメリカンビレッジの真ん中に一千六百台以上止まる駐車場を整備をいたしました。そのことによりまして、いわゆる商業とか、あるいはまたスポーツとか、こういった行事が多く開催されるようになつておりますけれども、しかしながら、この駐車場をこのように整備いたしましても、現状としては足りないわけでございます。したがつて、北谷も渋滞の沖縄県でワーキングオーナーなど渋滞になつてゐるわけです。

これを、駐車場をいわゆるこれからも二階建てにするとか三階建てにするとか、いろんな方法ありますか、解消していくためには、定時定速、そしてまた大量輸送というようなことが非常に重要なことをいふふうに思つてゐるわけです。

したがつて、LRT等の、いわゆる導入するこ

とにつながつてくると思いますので、これはやはり那覇を起点にするでしょうけれども、南部、あるいはまた沖縄県の東側、西側と、真ん中はほとんど今軍事基地でございますので西側、東側に分かれてくると思ひますけれども、人口の集中する中部ではまずやつていかなければならぬだろ

うし、将来的にはまた北部もつなぐことによつていたいと思います。

それから最後に、中条参考人にお伺いしたいと思います。

私たちは、実はこの視察で那覇空港に参りました。

た。貨物のターミナル、これを拝見させていたしました。貨物のターミナル、これを拝見させていたいわけですけれども、参考人のお話の中にございましたように、これから特区、空港にかかる特区を設けて広げていくというお話のようですが、いまますけれども、そななると、やはり滑走路の問題が出てくるだろうと思うのですけれども、これから参考人が考えるこの特区構想の中でいうとど

いいうところ辺りをちょっとお伺いしたいなと思います。よろしくお願いいたします。

○参考人(野国昌春君) 沖縄県は今はもう自動車社会でございまして、一家に二台、三台というのはもう普通の状況になつております。北谷町もいわゆる自動車での移動が多い、あるいはまた商業地への移動が、そういうことが多い、ということ、いわゆる町の土地に、アメリカンビレッジの真ん中に一千六百台以上止まる駐車場を整備をいたしました。そのことによりまして、いわゆる商業とか、あるいはまたスポーツとか、こういった行事多く開催されるようになつておりますけれども、しかしながら、この駐車場をこのように整備いたしましても、現状としては足りないわけでございます。したがつて、北谷も渋滞の沖縄県でワーキングオーナーなど渋滞になつてゐるわけです。

これを、駐車場をいわゆるこれからも二階建てにするとか三階建てにするとか、いろんな方法ありますか、解消していくためには、定時定速、そしてまた大量輸送というようなことが非常に重要なことをいふふうに思つてゐるわけです。

したがつて、LRT等の、いわゆる導入するこ

とに対する質問にも答へたいんですけど、時間がありますか、解消していくためには、定時定速、そしてまた大量輸送というようなことが非常に重要なことをいふふうに思つてゐるわけです。

私は、「一括交付金の話も同じなんですか」とお伺いします。

○参考人(中条潮君) 野国町長さんと比嘉さんに對する質問にも答へたいんですけど、時間がありますか、解消していくためには、定時定速、そしてまた大量輸送というものが基本ですね。つまり、あと一本滑走路を造つても十分に収入が得られると思うのであるならば、私は、「一括交付金の話も同じなんですか」とお伺いします。

これは、民営化された会社が自分で決めるとい

うのが基本ですね。つまり、あと一本滑走路を造つても十分に収入が得られると思うのであるならば、私は、「一括交付金の話も同じなんですか」とお伺いします。

○参考人(中条潮君) 野国町長さんと比嘉さんに對する質問にも答へたいんですけど、時間がありますか、解消していくためには、定時定速、そしてまた大量輸送というものが基本ですね。つまり、あと一本滑走路を造つても十分に収入が得られると思うのであるならば、私は、「一括交付金の話も同じなんですか」とお伺いします。

これは、民営化された会社が自分で決めるとい

うのが基本ですね。つまり、あと一本滑走路を造つても十分に収入が得られると思うのであるならば、私は、「一括交付金の話も同じなんですか」とお伺いします。

これは、民営化された会社が自分で決めるとい

うのが基本ですね。つまり、あと一本滑走路を造つても十分に収入が得られると思うのであるならば、私は、「一括交付金の話も同じなんですか」とお伺いします。

これは、民営化された会社が自分で決めるとい

うのが基本ですね。つまり、あと一本滑走路を造つても十分に収入が得られると思うのであるならば、私は、「一括交付金の話も同じなんですか」とお伺いします。

これは、民営化された会社が自分で決めるとい

うのが基本ですね。つまり、あと一本滑走路を造つても十分に収入が得られると思うのであるならば、私は、「一括交付金の話も同じなんですか」とお伺いします。

これは、民営化された会社が自分で決めるとい

分に対処できなかつたんではないかといふような指摘もあるわけなんですけれども、こうした問題に対応する政策について比嘉参考人としましてはどのようにお考えになつてゐるかということをお聞かせいただきたいと思います。

出生率が高いですが、離婚率が高い、そして失業率が高いと、こういったことに対する解決をするための政策については、比嘉参考人から見てどうのにお考えになつてゐるかということをまず最初にお聞かせいただきたいと思います。

○参考人(比嘉梨香君) 出生率の高さは、沖縄というのには日本に誇るべき状況にまだあるんですけども、だんだんそれも厳しくなつてしまいましてたが、今、離婚率の高さ、それからそれぞれの家庭の置かれている状況を見ますと、やはり沖縄が持つてゐる本来宝であったはずのチムグクルですかとか、地域で子供を育てるという状況がだんだん失われてきているような状況が今の沖縄の中にももう起きてきているのを感じます。

それを考えますと、もう今子供たちが育つていて中で、今離婚率が高くなつたり、子供たちの心がすさんでいく中で、だんだん親が親としての役目を果たしにくく状況になつてゐるものがあるとすれば、今の子供たちがそうならないように、いい大人になるために、子供たちの教育ということに関して、やはり一括交付金も活用しつつ、施設においては重視していつた方がいいのではないかと思います。

小さい子供をどのように育てたらいいのかといふのは、今予算の中でも子育て支援がいろいろ出ておりますけれども、やはり愛情を持つて子供を育てなければ、時間や金銭的な理由で子供に愛情を掛けられない中で、子供たちの心がすさんでいくような状況が今見受けられる、都市部の方に、とすればそこに対する支援。そして、離島においては、インターネットの時代においても一本のISDN回線でみんながインターネットを活用しているような状況において、例えばITの活用においてもなかなかうまくいかないかな

い。それを人的な形でサポートしていく、知恵を出し合うという意味でのいろんな施策を教育といふ分野において力を入れていく、若年者の人材育成において力を入れていくことが今最も重要なことがあります。

○橋本聖子君 ありがとうございます。

やはり今大都会で問題になつてゐるもののが沖縄にもそのような同じような問題が起きているといふことなんですねけれども、参考人がお書きになつた中で、優しく穏やかな県民性を守り、自然や芸能文化に囲まれて生き生きと暮らすことは最大の観光資源であるというふうにお書きになつてゐるのを見ました。

先ほど相原先生の質問にもありましたときに、参考人が今ある宝をどう生かすかということをおおつしやつたんですねけれども、その宝こそが沖縄が起きてきた、それがまさに沖縄のいわゆる人材育成の政策の一つなんだというふうに思ひます。それが、今取り組まれてゐる中で、本土の子供たちを離島に行かせて、そして大自然の中で学ばせておられるということによって大変な大きな教育に変化が起きてきた、それがまさに沖縄のいわゆる人材育成の政策の一つかなんだと思います。

宝を磨いて観光商品にしていく、それを生かすことができるというのは、それを生かすことができるのは、それがまさかの宝であると思います。これらは全て観光産業です。観光を、地域にあるソフツを持ったプランニングができる人であり、ガイドができる人であり、その人たちを全部コードネートしたりプロデュースしたりすることができる人で、全てやはり人に懸かるソフトを持った人で、全てやはり人に懸かるソフトを持った人であります。

今観光が多様化していく、今までのようにならぬことができる人で、全てやはり人に懸かるのである。やはり、こういったことが、さらに、優れた人材を送り出すためにもう一步先の教育をどのようにしていくかということ、沖縄はやはり何といつても第一に観光産業というのが命だといふふうに思うんですけれども、そういう人材を育成して観光産業に向けて雇用の創出をしていくことにつながつていくことが重要ではないかなどといふふうに思ひます。

○参考人(比嘉梨香君) 離島は沖縄の縮図であり、そして沖縄は日本の縮図ではないかといふふうに思ひますけども、喜びも悲しみも苦しみも見えやすく存在してゐるのが沖縄の離島であり、沖縄県の分野の人材育成することによって本当の意味で沖縄が沖縄の宝を生かした観光を推進でき、活用ができます。

そんな中で、人材を育成するということにおいては、やはり沖縄は日本の中でも、そこを國際人育成施設でまた更にどのように育っていくかということが政策として必要だというお話をだつたというふうに思ひます。ですから、今、比嘉参考人の提案を受けまして、野国参考人としてはこういった施設をどのように生かしていくべきなのかということを具体的にお聞かせいただければと思います。

○参考人(野国昌春君) 今、アメリカンビレッジ、いわゆるこれから観光というのは東南アジアも含めた外国の受入れというのも非常に重要なってくるだろうと思つてます。今、北谷町のアメリカンビレッジと言われるところに多くの米国人、それから台湾、あるいはまた中国、韓国、こういうふうにおいでになるわけですから、なかなか言葉が分からなくて売り切れないと、こういうような状況が出てきているわけです。

そういう意味では、私が今非常に考えているのは、今米軍の基地内にアメリカの大学が、メリーランドとか、いろんなところの大学があるわけです。ところが、この大学というのは、高等学校のハイスクールのいわゆる教室を借りてゐるだけであつて、そこでキャンパスがあつて校舎があつて

性化できるのではないかといふうに思います。

○橋本聖子君 ありがとうございます。

沖縄の宝というものを守り続けながら、また観光資源として発展をさせていかなければいけないという、非常に簡単なことではないというふうに思ひます。

近やはり実感してます。それが人と人が出会うことで生まれること、というのはもちろんなんですが、これが沖縄という地において行われたときに、自然の豊かさ、そして沖縄が古く先人から受け継がれてきた自然の中で暮らす生き方、それから人に優しく接する、そんな温かい心、そのようなものが沖縄の宝であり、それは自然によって育まれ、文化によつて継続されてきたんだと思ひますが、それを磨いていくことが、これから磨いてそれを商品化していくことが沖縄の生きる道だと思ひます。

その商品化というのは、旅行商品という商品もござります、特産品という商品も、そしてまた郷土料理、その地に行つてしまか食べられないものを食べるという意味での商品化もあると思います。これらは全て観光産業です。観光を、地域にある宝を磨いて観光商品にしていく、それを生かすことができるというのは、それを生かすことができるソフツを持つた人材ができる人であり、ガイドができる人であり、その人たちを全部コードネートしたりプロデュースしたりすることができる人で、全てやはり人に懸かるソフトを持つた人材ができる人であります。

今、アメリカンビレッジ、いわゆるこれから観光というのは東南アジアも含めた外国の受入れというのも非常に重要なてくるだろうと思つてます。今、北谷町のアメリカンビレッジと言われるところに多くの米国人、それから台湾、あるいはまた中国、韓国、こういうふうにおいでになるわけですから、なかなか言葉が分からなくて売り切れないと、こういうような状況が出てきているわけです。

そういう意味では、私が今非常に考えているのは、今米軍の基地内にアメリカの大学が、メリーランドとか、いろんなところの大学があるわけです。ところが、この大学というのは、高等学校のハイスクールのいわゆる教室を借りてゐるだけで、そこでキャンパスがあつて校舎があつて

れはもうSACOで返つてくる、いよいよもう近々返つてくるような状況になつておりますので、何とかいわゆるその跡地の一つのモデルとして、その大学を一つだけ外に出してもらう、基地の中じやなくして外に出してもらうというようなことで、いわゆるアメリカの大学生も、そして沖縄も、あるいはまた沖縄だけじゃなくして日本全体からの、ここに留学できるような形のものをつくつていけるんではないかと、こういう期待をいたしております。

これは、海軍病院を改修することによってできるんじゃないかと言う方もいらっしゃるし、また、その地域には中学校の校舎も広々とあるわけでございますので、返還された後にそいつたところを利用していわゆる学校をつくつていくと。そのことでいわゆるだんだん日本全体として減つている米国留学、そういうことも含めて、そいつた機運を醸成できるんではないかと、こういうふうに思つておられるわけでございます。

そういうことによつて、いわゆる先ほどの子育てでもござりますけれども、行政としても、やはり若い人は財産でございますので、そこで生活しやすいように、いわゆる待機児童の解消の問題とか保育の問題とか、あるいはまた働きやすいために保育園の運営の形態、夜間の状況をどうつくるとかとか、こういったことをしていけばいいんじゃないかということで、私は国際人をいわゆる養成するため、そして、そうすることによつて小、中、高、大学と、こういうふうな連携が生まれてくるんではないかと、こういう期待をしているところでございます。

○橋本聖子君 どうもありがとうございました。
○木庭健太郎君 公明党の木庭健太郎と申します。

今日は、三人の参考人の皆様、貴重な意見を本当にありがとうございます。

早速、まず中条参考人にお尋ねをいたします。

航空特区構想、すてきな案であり、是非実現しなければならない案だなというふうに痛感をいたしました。

しまして、お手伝いできることを一生懸命やりたいたも感じました。民営化しながら知恵を生かす、そういう発想は非常に大事だと思います。沖縄の場合、ただ、那覇空港のほかにも、例えば宮古にしても、下地島にしても、新石垣にしてみても結構長い滑走路を持つて、設備さえすれば、法を整備さえすれば観光客、国際交流拠点としてやれるような空港あるわけですね。そういう意味では、県内の空港というのは結構沖縄ある。これ、どんなふうに位置付ければいいのか。それぞれがアイデアを出せばいいことだということかもしれないが、是非、御意見があれば、それをまず中条参考人から教えていただきたい。

さらに、比嘉参考人からは、人材育成の話を先ほどからありましたがあつぱり沖縄という、このいう県民性というか、国際性というか、そういうた、沖縄の地で、人材育成というは全てのポイントだと思うんですが、これを更にやつしていくためには、グローバルな人材を育てていくためにはどういった仕組みを更に充実していく必要があるのかな、そんなことでもし御意見があれば教えていただきたいと、このように思います。

最後に、野国参考人からは、先日お訪ねさせていただきましたが、どういった仕組みを更に充実していく必要があるのかな、そんなことでもし御意見があれば教えていただきたいと、このように思います。

これも先ほど申し上げたのですが、イギリスのプリストルという空港は、お客様さん百四十万人から五百六十万人まで増やしたわけですね。これは、やはり大部分はこのJCCを集めてくるという、空港とそれから航空会社が提携をして発展をする、そういうやり方でやってきました。

ですので、十分に石垣、宮古ぐらいだったら可能性はあるかと私は考えています。ただし、それ以外の離島の空港は、これはさつきも申し上げたようにかなりきついです。きついですけれども、私が大変だなというのを改めて責任の重さを感じるのですが、もうちょっと国とか県に対して、この部分は地方自治体は一生懸命やるけれども、もうちょっと役割分担でやつてもらいたいなという部分があるのかどうなのかという点とともに、返還前の立入調査の問題、これについて、米国側の対応の現状と、町としての考え方もしあれば、簡潔に教えていただければと思います。

以上です。

○参考人(中条潮君) ありがとうございます。

先ほども少しお話をしたとおりなんですかけれども、私は、石垣、宮古、これは十分に那覇と競争できると思っています。この比嘉さんの資料の一
う話なんですね。

以上です。

○参考人(比嘉梨香君) グローバルの人材育成をどのようにしたらいいかという御質問でございますが、沖縄は、先ほど申し上げたように、沖縄で格呼ばれていますが、沖縄は、先ほど申し上げたように、沖縄で呼んで、一緒に交流しながらできる可能性がとてもある地域だというふうに思います。それは、世界に四十万人といわれる沖縄のネットワークだけではなくて、沖縄でだからこそ何か安心で安全に、ここでは自由に議論ができるよねというような雰囲気を沖縄は持つていています。

それは、歴史的に、中国やアジアの諸国、そして日本の中において、しなやかにその中で交流をしながら生き抜いてきた沖縄人のDNAの中にもしかしたらあるかもしれないそのしなやかさや、たくさんの人たちを受け入れることができる土壤が、沖縄に人材育成の場をつくることができる可能性をつくっているのではないかと思います。

国際センターが沖縄にはございますが、JIC Aの組織でけれども、その中で海外の受け入れてきた経験もございます。そして、沖縄は、復帰後すぐにアメリカを始め欧米に留学した方がたくさんいらっしゃいます。実は今、そのネットワークが結ばれていないということが一つ課題にございます。今まで戦後からずっと留学してきた先輩の方々、そして、今国際交流でいろんな事業が行われている中で生まれていてる沖縄で交流した子供たち、その子たちをいかにネットワークをつないでいくのか。それには、事務局というか、要となる組織が必要ではないかというふうに思います。その方が求心力を持つことによって、様々な情報をお発信したり、いわゆる労を取つてみんなをつなげていく。それを継続していくことによって、若い子たちが巣立つていても、ずっと沖縄を核にしながらお互いがつながり合つて、ビジネスにし

<p>と確立をし、それから更に広げていく中で民営化に向かって動く必要があるのではないか。予算を活用しながら、更に主体的な人材育成の事業ができる。それは、アジアのリーダーは沖縄で養成できるよどいことを強く打ち出せるだけのものを沖縄がつくり上げることによってできるのではないかというふうに思います。</p> <p>○参考人(野国昌春君) 二点ございましたけれども、北谷町が今、この前御視察いただいたところとそれから海軍病院が返還をされますと大体五千名から六千名人口が増えると、こういうふうに予測をいたしております。</p> <p>そうしますと、先ほど申し上げましたように、二万七、八千名になりますから、三万二、三千になると。こういうことになりますと、今、小学校四つ、中学校二つございますけれども、これだけではどうしても足りなくなるだろうと、こういうようなこともあります。当然、町をつくっていくためには公園、緑地というのも必要でございますけれども、そういった、しかし、町の単独でこれを用地も取得してやりなさいと、こういうような形になつてくると非常に厳しいものがあると。ですから、公共用地については国の責任でやつてもらいたいということ、その中に国有地があるならば、国有地を無償譲渡、あるいはまた格安といいますか、本当に無償貸、こういうような感じのものをつくついていただきたいなど、こういうことでござります。</p> <p>そして、人材育成の面になるわけですけれども、先ほど申し上げました、いわゆる基地内の中にある大学を一つこつちに持つてくる、こういうこと、あるいはまた英語の教育ができる英語村的なものもつくつしていくと、こういうことを、やはり沖縄県の人材育成、観光立県として生きるためのいわゆる言葉の問題、こういったことの解決につながつくるのではないかということで、国の支援というものを申し上げたつもりでございます。</p> <p>もう一つの、いわゆる立入り、返還前の立入りですけれども、これは、いわゆる合同委員会等で</p>
<p>立入調査できると、こういうようなことですけれども、なかなか米軍側が許可しないと、こういうようなことでございまして、これはやっぱり日本地協定なのかなと思つたりもいたしますけれども、やはり土地の持ち主はできるだけ早めに土地を使つていただきたいと、こういうことでありますので、使う金も何とかいい方向に参議院でも進むんだろうと、そのために、事前に立入調査をしてそこに何があつたとしております。</p> <p>そうしますと、先ほど申し上げましたように、二万七、八千名になりますから、三万二、三千になると。こういうことになりますと、今、小学校四つ、中学校二つございますけれども、これだけではどうしても足りなくなるだろうと、こういうようなこともあります。当然、町をつくっていくためには公園、緑地というのも必要でございますけれども、そういった、しかし、町の単独でこれを用地も取得してやりなさいと、こういうような形になつてくると非常に厳しいものがあると。ですから、公共用地については国の責任でやつてもらいたいということ、その中に国有地があるならば、国有地を無償譲渡、あるいはまた格安といいますか、本当に無償貸、こういうような感じのものをつくついていただきたいなど、こういうことでござります。</p> <p>○江口克彦君 みんなの党の江口克彦です。今日はどうもお三人ともありがとうございます。幾つか御質問をさせていただきたいと思うんですけど、それとも、中条先生、飛行場を民営化するといなつたら客が来るということではないと思うんですね。やっぱりそのためにはちょっと無理なことで、それは大変私も賛成でありますけれども、空港を民営化したら客が来る、空港が黒字になつたら客が来るということではないと思うんですね。やっぱりそのためには来るための沖縄の中での仕掛けをしなければならないというふうに思ふんですけれども、その仕掛けというものを考えておられるのか、あれば教えていただきたいということです。</p> <p>二つ目にお尋ねをしたいのは、お話を聞いてみると、三十九の離島に二万一千人ということになります。そういうふうなことをおつしやつたように思うんですけど、それとも、私はそのとおりだと思うんですが、あるいはまた会社を云々というのはちょっと無理なことですね。やっぱりそのためには来るための沖縄の中での仕掛けをしなければならないというふうに思ふんですけれども、その仕掛けというものを考えておられるのか、あれば教えていただきたいということです。</p> <p>それからもう一つは、沖縄で非常に課題になつているというか、ずっと一つの問題になつてゐるのは北部の開発ということですね。北部開発についてみたところは、ほとんど人がいなければなりませんが、離島を維持していくためにはやっぱりそのためにはなるべく離島振興といつたら補助金しか付金というか、補助金の方が大きいくらい思ひます。だから、離島振興といつたら補助金しか付金というか、補助金の方が多いと思うんですけど、結局はもう離島振興といつたら補助金しかないのかということについてお話を伺いたい。</p> <p>それから三つ目は、ここに書いてあるように、全国一律の制度や許可基準は離島にそぐわないことが多いということですけど、具体的にどういう事例があるのか、全国一律の制度で離島が困つてゐる、あるいはまた許可基準で困つてゐる、あるいはまた開発されていない。北部を開発するかということが問題で、中条先生のような發想だと、また相変わらず南というと、那覇を中心とした沖縄の開発、言つてみれば名護から北の方はほとんど人がいなかない、あるいはまだ開発されていない。北部を開発したことになります。</p> <p>みれば南が重くなるような開発ますますというこ</p>
<p>立入調査できると、こういうようなことですけれども、なかなか米軍側が許可しないと、こういうようなことでございまして、これはやっぱり日本地協定なのかなと思つたりもいたしますけれども、やはり土地の持ち主はできるだけ早めに土地を使つていただきたいと、こういうことでありますので、使う金も何とかいい方向に参議院でも進むんだろうと、そのために、事前に立入調査をしてそこに何があつたとしております。</p> <p>そうしますと、先ほど申し上げましたように、二万七、八千名になりますから、三万二、三千になると。こういうことになりますと、今、小学校四つ、中学校二つございますけれども、これだけではどうしても足りなくなるだろうと、こういうようなこともあります。当然、町をつくっていくためには公園、緑地というのも必要でございますけれども、そういった、しかし、町の単独でこれを用地も取得してやりなさいと、こういうような形になつてくると非常に厳しいものがあると。ですから、公共用地については国の責任でやつてもらいたいということ、その中に国有地があるならば、国有地を無償譲渡、あるいはまた格安といいますか、本当に無償貸、こういうような感じのものをつくついていただきたいなど、こういうことでござります。</p> <p>○江口克彦君 みんなの党の江口克彦です。今日はどうもお三人ともありがとうございます。幾つか御質問をさせていただきたいと思うんですけど、それとも、中条先生、飛行場を民営化するといなつたら客が来るということではないと思うんですね。やっぱりそのためには来るための沖縄の中での仕掛けをしなければならないというふうに思ふんですけれども、その仕掛けというものを考えておられるのか、あれば教えていただきたいということです。</p> <p>二つ目にお尋ねをしたいのは、お話を聞いてみると、三十九の離島に二万一千人ということになります。そういうふうなことをおつしやつたように思うんですけど、それとも、私はそのとおりだと思うんですが、あるいはまた会社を云々というのはちょっと無理なことですね。やっぱりそのためには来るための沖縄の中での仕掛けをしなければならないというふうに思ふんですけれども、その仕掛けというものを考えておられるのか、あれば教えていただきたいということです。</p> <p>それからもう一つは、沖縄で非常に課題になつているというか、ずっと一つの問題になつてゐるのは北部の開発ということですね。北部開発についてみたところは、ほとんど人がいなければなりませんが、離島を維持していくためにはやっぱりそのためにはなるべく離島振興といつたら補助金しか付金というか、補助金の方が多いと思うんですけど、結局はもう離島振興といつたら補助金しかないのかということについてお話を伺いたい。</p> <p>それから三つ目は、ここに書いてあるように、全国一律の制度や許可基準は離島にそぐわないことが多いということですけど、具体的にどういう事例があるのか、全国一律の制度で離島が困つてゐる、あるいはまた許可基準で困つてゐる、あるいはまた開発されていない。北部を開発するかということが問題で、中条先生のような發想だと、また相変わらず南というと、那覇を中心とした沖縄の開発、言つてみれば名護から北の方はほとんど人がいなかない、あるいはまだ開発されていない。北部を開発したことになります。</p> <p>みれば南が重くなるような開発ますますというこ</p>
<p>立入調査できると、こういうようなことですけれども、なかなか米軍側が許可しないと、こういうようなことでございまして、これはやっぱり日本地協定なのかなと思つたりもいたしますけれども、やはり土地の持ち主はできるだけ早めに土地を使つていただきたいと、こういうことでありますので、使う金も何とかいい方向に参議院でも進むんだろうと、そのために、事前に立入調査をしてそこに何があつたとしております。</p> <p>そうしますと、先ほど申し上げましたように、二万七、八千名になりますから、三万二、三千になると。こういうことになりますと、今、小学校四つ、中学校二つございますけれども、これだけではどうしても足りなくなるだろうと、こういうようなこともあります。当然、町をつくっていくためには公園、緑地というのも必要でございますけれども、そういった、しかし、町の単独でこれを用地も取得してやりなさいと、こういうような形になつてくると非常に厳しいものがあると。ですから、公共用地については国の責任でやつてもらいたいということ、その中に国有地があるならば、国有地を無償譲渡、あるいはまた格安といいますか、本当に無償貸、こういうような感じのものをつくついていただきたいなど、こういうことでござります。</p> <p>○江口克彦君 みんなの党の江口克彦です。今日はどうもお三人ともありがとうございます。幾つか御質問をさせていただきたいと思うんですけど、それとも、中条先生、飛行場を民営化するといなつたら客が来るということではないと思うんですね。やっぱりそのためには来るための沖縄の中での仕掛けをしなければならないというふうに思ふんですけれども、その仕掛けというものを考えておられるのか、あれば教えていただきたいということです。</p> <p>二つ目にお尋ねをしたいのは、お話を聞いてみると、三十九の離島に二万一千人ということになります。そういうふうなことをおつしやつたように思うんですけど、それとも、私はそのとおりだと思うんですが、あるいはまた会社を云々というのはちょっと無理なことですね。やっぱりそのためには来るための沖縄の中での仕掛けをしなければならないというふうに思ふんですけれども、その仕掛けというものを考えておられるのか、あれば教えていただきたいということです。</p> <p>それから、一番大きな話は、国際航空を自由化するという中で、琉球が独立すれば国際線になりますよという話なんです。先ほどの木庭先生の御質問とも関連するんですけど、宮古―東京も、石垣―東京も、那覇―東京も国際線になるんです。そうすると、そこにどんどん自由化された国際線の中で参入が起ころり、安い航空会社が入つてきま</p>

めた方がいいと思います。全て沖縄全体を振興させようと思つても無理です。これは、実は日本全体についても同じことが言えると私は思います。だけど、だと領土として確保していかなければいけない部分という是有るわけですから、そこには人が住んでいてもらわないと困りますから、そこをきちんと助けるという、ライフラインとしての最低限の生活をきちんと確保する。しかし、全ての離島を振興させるというのは無理だと思います。さつきの比嘉さんのあの地図見てください。どれだけ離島の数がありますか。それが全部が同じように競争したらどこが生き残りますかという話です。すなわち、生き残れるところ、振興してほかを支えることができるところは思い切って自由にしてやって振興をどんどんしてもらう、それ以外のところは最低限の生活を維持するという形に政策を改めていく必要があると思います。

○参考人(比嘉梨香君) 今、中条先生がおっしゃっていましたけど、なかなか小さい島で活性化するというのは難しい状況があります。どんどんどんどん人口が少なくなっていくのは、やはり島での生活の大変さというのがかなり影響しておりますし、高校を外に出てしまふと、もう島に戻つても仕事がないで戻れない。これは日本全国、田舎は一緒かもしれません、特に小さい島の場合は行くだけお金が掛かつてしまふがゆえに余計にできないのかなというふうに思つておりますが。

今、島をじゃ活性化するはどうしたらいいかということの御質問に対しても、沖縄県の一つの島をじゃ活性化ではあります、特に陸路で行けない島の人口が一・五%です。離島の人口は一〇%ぐらいます。ですから、百四十万人の中で一〇%ぐらいは実は離島に住んでいます。それは、石垣島や宮古島は大きな島ですから、そちらですと企業の誘致も大きなホテルを造ることも可能ですし、いろんな可能性があると思います。

私が行つてゐる島々の中には、もつと小さくて、

本当に人口が数人だつたり五十人以下の島もありますし、そういう島を見ていくときに、島の中に生きる人は、島で生きることに誇りも持つて、愛情を持つて、やっぱりここで生きたいと思つていて、それがとても多いということは感じます。それは、島の暮らしというものが島の人たちにとつて、本当にそれが島を愛する心が支えているんでしようし、不便さも何も、昔からそこで暮らしてきた中で、いろんな自然の中で生きる知恵とももしかすると、これから時代はこの自然とともに生きてきた先人たちの知恵というものが生きる、それが宝にもなるのではないかといふふうに思います。

自然資源、文化資源を生かして、それを商品に変えていくという中では、亜熱帯の植物や生き物、そして海洋資源の中には活用できるものもいっぱいあるでしょうが、そこで今度、生きる人が持つてある知恵も、それももしかするとこれから生きられるかもしれません。私は、そのような今までいることをやつて、島の人たちが少しでも収入が得られ、そして島で生きることに喜びが増えるようにというようなお手伝いの仕方をしてまいりました。

ですから、大きな活性化ではありませんが、島で生きることの何らかのサポートをするというこ

と、定時定速という、あるいはまた大量に輸送でくると、こういうことが確立できるんではないかというお話をございましたけれども、いわゆるこれから鉄軌道となりますが、いろんなこれからの条件整備等が必要になると思ひますけれども、LRTですと既存の道路をまず使えるんではないかというのが私は、非常に早めにできてくると、定時定速という、あるいはまた大量に輸送でくると、こういうことが確立できるんではないか

ことで……(発言する者あり) 五十八号線。これは、ですから、那覇を起点に糸満にも、それから北部五十八号線も、それから東側、与那原を経由してのうるま市、こういうふうな道にもなると思いますけれども、一つの拠点をつくると環状線みたいにもできてくるんではないかという形でLRTをやっております。これは富山県でやつておるようとして、まだ見ていないんですけども、是非その状況というものを見てみたいな

と、こういうふうに思つております。決してこれだけでいいことじやなくして、やはり北部の方の生活圏が定時定速になるとそこに住んでおつて通勤が可能だと、こういうような状況も出てくるだらうと思いますので、LRTを五十八号線、あるいはまた三三〇、三三一九、こういうふうな形で造つていただければ非常にいいのかなと思つております。

それから、原状回復を確かに経験して、平成十五年に返還をされて、二十三年、去年の九月にやつ

て、と使用収益の三分の一が開始をされたと。そして今年二期、そうするともう九年、二十六年だともにかかるこの許認可が全国一律ではなかなかできないことだと思います。

小さな島では、例えば漁港と旅客ターミナルとが混在していたりします。そこを全部法律でやつてしまおうとなると、なかなかうまくいかない。ですから、生活する上で、小さい島が、少ない人数の中で、インフラが整つていない中でやつていては、どうしても全国一律のものでは成り立たないというものが多いということをございます。

よろしいでしょうか。

○参考人(野国昌春君) まず、LRTだけでよいのかというお話をございましたけれども、いわゆるこれから鉄軌道となりますと、いろんなこれからの条件整備等が必要になると思ひますけれども、LRTですと既存の道路をまず使えるんではないかというのが私は、非常に早めにできてくると、定時定速という、あるいはまた大量に輸送でくると、こういうことが確立できるんではないか

ことで……(発言する者あり) 五十八号線。これは、ですから、那覇を起点に糸満にも、それから北部五十八号線も、それから東側、与那原を経由してのうるま市、こういうふうな道にもなると思いますけれども、一つの拠点をつくると環状線みたいにもできてくるんではないかという形でLRTをやっております。これは富山県でやつておるようとして、まだ見ていないんですけども、是非その状況というものを見てみたいな

と、こういうふうに思つております。決してこれだけでいいことじやなくして、やはり北部の方の生活圏が定時定速になるとそこに住んでおつて通勤が可能だと、こういうような状況も出てくるだらうと思いますので、LRTを五十八号線、あるいはまた三三〇、三三一九、こういうふうな形で造つていただければ非常にいいのかなと思つております。

それから、原状回復を確かに経験して、平成十五年に返還をされて、二十三年、去年の九月にやつていただきたいのと、それから、やっぱりほかの

返還地と一体的に整備をしていかなければいけないと思うんですけれども、その点での再開発への要望ということが一つお聞きしたいことと、もう一つ、併せてお聞きしたいのが、北谷町は嘉手納基地も抱えているわけです。それで、戦闘機の訓練の爆音被害なんかも非常に、私どもも行って、物すごい音がするわけですが、いつもこの負担軽減ということを言われるんだけれども、しかしながら、負担が軽減されたのかというところは、私は率直に言つてとてもそういうふうには思えないと、併せてその辺りのところについての町長さんの実感と、それから、最近は基地の外に米軍の方が住まうところが増えているということなので、それについてもどうなのかなということについてお聞きしたいと思います。

それから、比嘉参考人に対しては、子供の貧困という問題がやはり沖縄でも深刻な問題になつて、県の教育委員長として現場でじかに感じられていること、その対応といふこと、それから、この参考人の資料の中に本島の子供たちを離島に連れていく活動ということで紹介があるんですねけれども、生活がなかなか大変だ、困窮しているというような子供たちなんかが参加する場合のその財政的な援助とか、そういった対策なんかはどのようにされているのかなということをお聞きしたいと、以上です。

○参考人(野国昌春君) 今、海軍病院のところで

すけれども、ここもSACCO合意では二〇〇七年までに返還をするというようなことでしたけれども、もう既に五年が経過をしているわけです。

これは、いわゆる常に返還に当たっては、いわゆる移設条件付というようなことが一つの課題になつております。

私としましては、いわゆる五ヘクタールとか、

そういう形での細切れ返還になると町づくりそ

いんすけれども、その辺りのところについてのもののが全くできないと、ある程度まとまつた範囲での土地を返還してもらいたいと、こういうようなことで常に国にも要請等も

しているところであります。したがつて、キャンプ瑞慶覧とか、こういうところも、いわゆる百メートルとか、いわゆる五十八号線から百メートルと

か、こういつた形の返還じゃなくて、まとまつた形での返還をしてほしい、町づくりができる範囲での返還をしてほしいと、こういうような要請をしているし、また希望もいたしているところであります。

そのことが、先ほど交通渋滞もあると申し上げましたけれども、いわゆる国道拡幅も、今年、新年度ではいわゆる事業化が通つたわけですね。國の方から通つたわけで、三百三十億円の事業化が認められておりますので是非これを早めに進め

ていくと。場合によつては、返還が遅れるようだつたら道路分だけの共同使用とか、こういったことも視野に入れて対応しなければいけないだらうといふうに思つております。

爆音被害につきましては、嘉手納基地を取り巻く沖縄市、嘉手納町、北谷町で三市町連絡協議会、俗に三連協と言つておりますけれども、三連協で爆音問題については常に取り上げております。そ

の前は確かに役場の調査でもその間少し静かになつたということではござりますけれども、しかし、いわゆる二十一時から翌朝の六時までといふ、このことが全く守られていないと。もう現在でも、

四時半ごろ必ずというほどエンジン調整音というのが聞こえてきまして、確かに離発着は六時以降になつてきておりますけれども、飛行機は、戦闘機はいきなりエンジンを掛けて飛ぶというわけにはいかないようですので、そのためのエンジン調整の時間の爆音というものは地域住民に非常に負担となつていて、このようなことでござります。

それから、米軍人軍属が基地の外に住むという

ものが全くできないと、いうようなことで、ある程度まとまつた範囲での土地を返還してもらいたいと、こういつたことと、まさに一定のルールを守つた形でのものでやつてもいいと。昨年も夏に、米軍人が傍若無人な、そこに瓶を割つたりしたというよ

うなことで、四軍調整官に言つて抗議をして、その後そういうこともなくなつてはいますけれども、しかしながら、まだまだそういういた基地の外に住む者も含めて、我々としてはその実態が、住民登録もされていないのですので実態が明らかにされていないと、こういうようなことがやはり漠然とした不安にもつながつてると、こういうこと

で、北谷町も沖縄県で一番目に多い、沖縄市がこの前なりましたけれども、しかし人口比にすると、あるいは面積比にすると断然北谷町が多いわけ

で、そういう事件、事故に対する不安もあると、こういうような状況であります。

○参考人(比嘉梨香君) 子供の貧困については全国的に悩ましい状況にあると思ひますけれども、北海道と並んでいつも一位を争つてゐる沖縄県でございますから、一人親の世帯多いです。そ

して、母子家庭が多くて、観光立県でございますから、女性の仕事で一番多いのが夜のお仕事になつてしまふ。そうしますと、うちに夜親がいな

いだけではなくて、核家族化は全国並みに進んでおりますので、一人で子供たちが過ごす。

そこで起つてゐるのが、例えばしつけですとか、あるいはマナーですか、社会性を養つといふことが家庭の中でなかなかできにくかつたり、そして、一番大事な親やあるいは周りにいる大人たちと接することによって心、愛情を受けて心を育てるというのが、沖縄でも、都市部においては

ちょっととくなつてきつあるのかなというふうに思います。

やはり、生活保護の受給率は決して全国一位と云うわけではないんですけれども、高いこともあり、それから就学援助を受けている子供たちの数も那覇とか都市部では二割を超えています。それ

は、給食費ですか学用品を支援してもらうことによつてやつてある子供たちが多い。

先生方からお話を聞きますと、やっぱり子供たちが朝学校に来ない、いない。じゃ、先生が行くと、親はいなくて子供が一人でいて、冷蔵庫の中には何もないから買い出しをして冷蔵庫に食べ物を入れ、御飯を作つて帰つてくるというようなこ

とをやつてくださつて、これはもう沖縄だけのことです。そういう先生方のお話を聞きますと、やはり学校に

モードにしながら呼び起こすことによつて、みんなで子供を育てる、将来の宝を育てていくということがあります。

そのための支援事業に対する予算は、はつきり申し上げて少ないと思ひます。ですから、一括交付金が活用できるのであれば、その辺の充実、スクールサポーターしかしり、地域のコミュニティー

で学校をサポートする仕組み、その他大学生が例えば小学生を指導するとか、塾に行けない子供た

ち、学業が遅れている子供たちをサポートする大

人のチームなどをどのようにつくりそれを支援していくのか、これはこれから求められることだと

思ひます。

それから、離島活性化、離島体験交流事業についてですが、那覇の子供たちあるいは本島の子供たちが、やはり生きる力が失われてきている、そ

れからコミュニケーションが取れなくなつてきて

いると。これももう全国と同じように沖縄も進んできておりまして、それを離島に行くことによつて、離島のおじさん、おばさんたちは今でも子供たちをメーゴーサー、げんこつ、スープーメーゴーサーつてやつたりしますけれども、げんこつをしたりしながら叫びます。この叫ぶことに喜びを感じるというぐらいの現象が、全国から来る子

供たちの中でも、沖縄の子供たちの中でも生まれているんです。そのくらい、子供たちが自分に目を向けられないといふうな寂しさを持つているんだと思うんですね。ですから、叱ることも含めて声を掛け、その子を認めてあげるというのを離島の中でやつてていることというのがこの事業の目的の一つなんですが、離島でそれを体験させるというのを、そこで何かのきっかけで勇気が湧いてくれば、子供たちが自ら自分が生きる道を見出していくける、そしてその力を自分でつくり出していける、進めておりまして、これは三か年の国の補助を受けた事業です。

ですから、今のところ子供たちの負担はあります。今後どのように続けていくかというのは、先ほどの就学援助を受けている子供たちはそのまま支援が出るのでしょうけれども、全般的に必要とされている生きる力を付けていく、コミュニケーションを付けていく、それから未来に向かって夢を持てる子供たちをつくっていくための事業というのは、補助の在り方というのを新たにつくり、継続的な支援をしていく必要があるのではないかというふうに思つております。

○山内徳信君 私は、中条先生には質問ではございませんで、先生の発想にかなり共鳴したという私の考えをお伝えしたいと思つております。

先生のこの資料のカジノのところ以外は私はほとんど賛成できるんです。東京にこんなに既成概念を打ち破つた、あるいは既成概念を乗り越えられた先生がいらっしゃるというのは私にとっては新しい発見でございました。しかも、琉球王国の、これは一四〇〇年代に尚泰久王が首里城正殿の前に大きな鐘をつるしたわけですが、その中に万国津梁が出て、最近は名護にまできておる建物も万国津梁館、うるま市に建つておりますあのI.T関係の施設も万国津梁館と書かれておるんですね。それで、私はこの万国津梁の鐘に書かれておるよう

湧き出てくるような、そういう蓬萊島が琉球王国であると、こういうふうに言つて貿易立国としているんだと思つたんですね。ですから、叱ることも含めて声を掛け、その子を認めてあげるというのを離島の中でやつていることというのがこの事業の目的の一つなんですが、離島でそれを体験させるというのを、そこで何かのきっかけで勇気が湧いてくれば、子供たちが自ら自分が生きる道を見出していくける、そしてその力を自分でつくり出していける、進めておりまして、これは三か年の国の国の補助を受けた事業です。

ですから、今のところ子供たちの負担はあります。今後どのように続けていくかというのは、先ほどの就学援助を受けている子供たちはそのまま支援が出るのでしょうけれども、全般的に必要とされている生きる力を付けていく、コミュニケーションを付けていく、それから未来に向かって夢を持てる子供たちをつくっていくための事業というのは、補助の在り方というのを新たにつくり、継続的な支援をしていく必要があるのではないかというふうに思つております。

○山内徳信君 私は、中条先生には質問ではございませんで、先生の発想にかなり共鳴したという私の考えをお伝えしたいと思つております。

先生のこの資料のカジノのところ以外は私はほとんど賛成できるんです。東京にこんなに既成概念を打ち破つた、あるいは既成概念を乗り越えられた先生がいらっしゃるというのは私にとっては新しい発見でございました。しかも、琉球王国の、これは一四〇〇年代に尚泰久王が首里城正殿の前に大きな鐘をつるしたわけですが、その中に万国津梁が出て、最近は名護にまできておる建物も万国津梁館、うるま市に建つておりますあのI.T関係の施設も万国津梁館と書かれておるんですね。それで、私はこの万国津梁の鐘に書かれておるよう

涌き出てくるような、そういう蓬萊島が琉球王国であると、こういうふうに言つて貿易立国としているんだと思つたんですね。ですから、叱ることも含めて声を掛け、その子を認めてあげるというのを離島の中でやつていることというがこの事業の目的の一つなんですが、離島でそれを体験させるというのを、そこで何かのきっかけで勇気が湧いてくれば、子供たちが自ら自分が生きる道を見出していくける、そしてその力を自分でつくり出していける、進めておりまして、これは三か年の国の補助を受けた事業です。

ですから、今のところ子供たちの負担はあります。今後どのように続けていくかというのは、先ほどの就学援助を受けている子供たちはそのまま支援が出るのでしょうけれども、全般的に必要とされている生きる力を付けていく、コミュニケーションを付けていく、それから未来に向かって夢を持てる子供たちをつくっていくための事業というのは、補助の在り方というのを新たにつくり、継続的な支援をしていく必要があるのではないかというふうに思つております。

○参考人(野国昌春君) ハンビーとそれから美浜、ここがおもろまちと並んでいわゆる返還跡地の再開発の成功事例とこういうふうに言われております。ハンビーも美浜も昭和五十六年に返還されました。そして、ハンビーは、いわゆる設立平和学科とか、その他幾つかを組み合わせて、とにかくことによつて学校ができると私は可能性を見ています。そうすると、農業関係と水産関係と、わびあいの里のあの平和資料館を生かして、毎年伊江小の六年生が児童劇をやっていく。毎年伊江小の六年生が児童劇をやっていく。毎年伊江小の六年生が児童劇をやっていく。

まして、それを私は見ることにしておるんです。そういうふうに、是非、比嘉さんの今の運動を

涌き出てくるような、そういう蓬萊島が琉球王国であると、こういうふうに言つて貿易立国としているんだと思つたんですね。ですから、叱ることも含めて声を掛け、その子を認めてあげるというのを離島の中でやつていることというがこの事業の目的の一つなんですが、離島でそれを体験させるというのを、そこで何かのきっかけで勇気が湧いてくれば、子供たちが自ら自分が生きる道を見出していくける、そしてその力を自分でつくり出していける、進めておりまして、これは三か年の国の補助を受けた事業です。

ですから、今のところ子供たちの負担はあります。今後どのように続けていくかというのは、先ほどの就学援助を受けている子供たちはそのまま支援が出るのでしょうけれども、全般的に必要とされている生きる力を付けていく、コミュニケーションを付けていく、それから未来に向かって夢を持てる子供たちをつくっていくための事業というのは、補助の在り方というのを新たにつくり、継続的な支援をしていく必要があるのではないかというふうに思つております。

○参考人(野国昌春君) ハンビーとそれから美浜、ここがおもろまちと並んでいわゆる返還跡地の再開発の成功事例とこういうふうに言われております。ハンビーも美浜も昭和五十六年に返還されました。そして、ハンビーは、いわゆる設立平和学科とか、その他幾つかを組み合わせて、とにかくことによつて学校ができると私は可能性を見ています。そうすると、農業関係と水産関係と、わびあいの里のあの平和資料館を生かして、毎年伊江小の六年生が児童劇をやっていく。毎年伊江小の六年生が児童劇をやっていく。

まして、それを私は見ることにしておるんです。そういうふうに、是非、比嘉さんの今の運動を

涌き出てくるような、そういう蓬萊島が琉球王国であると、こういうふうに言つて貿易立国としているんだと思つたんですね。ですから、叱ることも含めて声を掛け、その子を認めてあげるというのを離島の中でやつていることというがこの事業の目的の一つなんですが、離島でそれを体験させるというのを、そこで何かのきっかけで勇気が湧いてくれば、子供たちが自ら自分が生きる道を見出していくける、そしてその力を自分でつくり出していける、進めておりまして、これは三か年の国の補助を受けた事業です。

ですから、今のところ子供たちの負担はあります。今後どのように続けていくかというのは、先ほどの就学援助を受けている子供たちはそのまま支援が出るのでしょうけれども、全般的に必要とされている生きる力を付けていく、コミュニケーションを付けていく、それから未来に向かって夢を持てる子供たちをつくっていくための事業というのは、補助の在り方というのを新たにつくり、継続的な支援をしていく必要があるのではないかというふうに思つております。

○参考人(野国昌春君) ハンビーとそれから美浜、ここがおもろまちと並んでいわゆる返還跡地の再開発の成功事例とこういうふうに言われております。ハンビーも美浜も昭和五十六年に返還されました。そして、ハンビーは、いわゆる設立平和学科とか、その他幾つかを組み合わせて、とにかくことによつて学校ができると私は可能性を見ています。そうすると、農業関係と水産関係と、わびあいの里のあの平和資料館を生かして、毎年伊江小の六年生が児童劇をやっていく。毎年伊江小の六年生が児童劇をやっていく。

涌き出てくるような、そういう蓬萊島が琉球王国であると、こういうふうに言つて貿易立国としているんだと思つたんですね。ですから、叱ることも含めて声を掛け、その子を認めてあげるというのを離島の中でやつていることというがこの事業の目的の一つなんですが、離島でそれを体験させるというのを、そこで何かのきっかけで勇気が湧いてくれば、子供たちが自ら自分が生きる道を見出していくける、そしてその力を自分でつくり出していける、進めておりまして、これは三か年の国の補助を受けた事業です。

ですから、今のところ子供たちの負担はあります。今後どのように続けていくかというのは、先ほどの就学援助を受けている子供たちはそのまま支援が出るのでしょうけれども、全般的に必要とされている生きる力を付けていく、コミュニケーションを付けていく、それから未来に向かって夢を持てる子供たちをつくっていくための事業というのは、補助の在り方というのを新たにつくり、継続的な支援をしていく必要があるのではないかというふうに思つております。

○参考人(野国昌春君) ハンビーとそれから美浜、ここがおもろまちと並んでいわゆる返還跡地の再開発の成功事例とこういうふうに言われております。ハンビーも美浜も昭和五十六年に返還されました。そして、ハンビーは、いわゆる設立平和学科とか、その他幾つかを組み合わせて、とにかくことによつて学校ができると私は可能性を見ています。そうすると、農業関係と水産関係と、わびあいの里のあの平和資料館を生かして、毎年伊江小の六年生が児童劇をやっていく。毎年伊江小の六年生が児童劇をやっていく。

まして、それを私は見ることにしておるんです。そういうふうに、是非、比嘉さんの今の運動を

島尻安伊子君。

○島尻安伊子君 自由民主党、島尻安伊子でござります。

三名の参考人に短く御質問をさせていただきました

いと思います。

まず、中条参考人には、空港の民営化というこ

とを中心にお話を伺ったわけあります。今回、

沖縄振興法で物流特区という条文を入れることが

できました。既に全日空の物流貨物のもう運営

が始まっているわけありますけれども、今後、

やはり沖縄が経済的にも強い沖縄になるというこ

とが安全保障上も重要ではないかという思いの中

で、アジアで競争できる沖縄あるいは空港あるい

は港湾等々にしていかなければならぬというふう

うに思つております。

その仕掛けなんですか、例えばBツービーB

とかBツーCとか、对中国あるいはアジア全域に

向けて大変な可能性が秘められているというふう

に思いますけれども、スケールメリットというこ

とも含めて、是非参考人のアドバイス等々をいた

だければというふうに思ひます。

それから、比嘉参考人には、さすが県の教育委員

員でお仕事をなさつていたという中で大変示唆に

富んだお話を伺えたというふうに思つております。

これまで、何といいましょうか、沖縄の振興と

いうのが基地か経済かというふうな考え方の中

で、やはり県民の暮らしとか子供たちの教育ある

いは福祉という、そこがもう見落とされてきた感

が否めないわけであります。その中でも、今回

のこの法案で子供政策あるいは青少年の育成とい

う条文が入ったというのは大変評価できるのでは

ないかというふうに思ひますが、その一方で、先

ほどお話をあつたような一括交付金云々、予算の

仕組みが変わつてくるわけで、そういう中での今

申し上げたような教育あるいは福祉の充実を図る

にはどんな仕組み、仕掛けが必要なのか。あるいは、具体的に言えれば、県厅というか、県の中で新

たなこういった教育、福祉に関する部署を充実さ

せなければいけないのではないかなというふうに思つて

います。その辺もしお考へがあつたらお

聞きしたいと思います。

三名の参考人に短く御質問をさせていただきた

思つていまして、その辺もしお考へがあつたらお聞きしたいと思います。

それから、野国参考人には、すばり、今基地内

大学等々との交流ということがお話をあります。

まず、教育というのは、もう大変その点大賛成なん

ですけれども、もう一つ、医療の交流という観点

で、海軍病院は宜野湾市に移りましたけれども、

今後、地域の医療の交流の中で、海軍病院との交

流という中で、町長のお考へがもしございました

らお聞かせいただきたいと思います。

○委員長(岸信夫君) それでは、時間が来ており

ますので、答弁簡潔にお願いいたします。

○参考人(中条潮君) 先ほどの繰り返しになります

すけれども、まさに今おっしゃついていただいたよ

うに、経済的に強くなるということがやつぱり大

事な話であつて、頼るという発想から自立の発想、

だから琉球王国独立ということを申し上げている

わけですけれども、それを単に言葉で言つてゐる

だけではなくて、実際に実現していくためには、

人、物、金、これを自由に、まずはオーブンにす

るということです。そういう点で、沖縄全県特区

がまさに琉球王国独立ということを意味するんで

すよということを申し上げたわけですが、今回の

法案で、物流特区、取りあえずそこだけがオーケー

になつたわけですけれども、更にそれを広げてい

く。

沖縄の人たちは、外国というものについての、

異国というもののについてのアレルギーの程度とい

うのが日本全体に比べると私はかなり低いと思つ

ています。そこをいかにして生かして、どんどん

外国から人を入れてくる、物を入れてくる、お金

を入れてくる。先ほど空港のことでも、今回は空

港について申し上げましたけれども、ほかのいろ

んなIT産業とかそういうものについても、

外国からの、何というか、進入を、これを拒否し

ないということですね。そのアレルギーを理解す

るという能力は、私は十分にこれまでの歴史の中

で持つてゐると思います。そこのその強みを生か

すということが大事かなと思っています。

○参考人(比嘉義香君) ありがとうございます。

一括交付金は本当に運用においてどうするの

か、それは沖縄側にも試されていることだと思ひ

ます、が、自由な中でどう使つていくかということ

ではございますが、県庁の中の新しい部署という

お話がございましたが、県民の暮らしや教育や福

祉ということに関して充実させるには、やっぱり

その部署にお金と人を配することが最も求められ

てくると思います。どうしても、人は特にどんどん

削減の方向にあり、あるいは動ける人というの

がなかなかその部署には行かなかつたりというか

少なかつたりというようなことがあります、やはり基

幹産業の方に行つてしまつというのが状況であり

ますから、そこは充実させることが求められてく

るかなと思います。

それと、沖縄は今、先ほどは離島の話をしまし

たけれども、教育の分野においても、もう様々な

複雑な課題があります。それから、暮らし、福祉、

どれを取つてみても、構造的な問題も含めてとて

も複雑です。それを全部拾おうというのは、行政

や誰かがやるというのは難しいと思います。とな

ると、新しい公共という考え方こそまさに沖縄の

中でこれから生かした方がいいのではないか

と。

多様な人たちが、例えばNPOの活動をしてい

たりNGOの活動をしてしたり、少しでも沖縄の

暮らしを良くしていく、教育を少しでも、子育

てを支援していく、あるいは福祉を充実させよ

うとして動いている思いのある人たちをいかに支

援するかということをやるために、まず弱者で

あり少數の声を拾う仕組みが必要だと思ひます

し、それを全て公共のお金でやろうとする、そ

れはなかなかできない。そこを民間の思いを持つ

人たちと一緒に連携することによって充実をさ

せていくという。そのため、この数年間は、そ

の仕組みづくりですとかその声を拾い上げるとい

うことをしつかりとやる中で、やはり全体的な沖

縄の教育、暮らし、福祉の充実を図つていく必要があるのではないかというふうに思ひます。

○参考人(野国昌春君) 海軍病院は、いわゆるイ

ンターン生を本土の医学生も含めて数名受け入れ

ています、毎年毎年ですね。私も、最近は行つて

いないですけれども、卒業式とかインターン生の

修了式とかには何回か参加をさせてもらいました

。そういった人材交流等もございます。海軍病

院ができたてのころは、沖縄ではもう中部病院ぐ

らいしかいわゆる大病院はないわけで、かなり交

通事故とかあるいはまたいろいろな病気でお世話に

なつただろうと思つています。

ただ、今度、問題は、いわゆる医療保険が海軍

病院で治療を受けた場合に使えるのか、使える仕

組みができるのかどうかとか、こういったことが

一つ課題になつてくるのではないかというふう

に思つてゐることが一つ。それから、例の九・一

以降、いわゆる基地内への民間人の車というも

のがかなり入りにくくなつております。かなり工

スコートがないと入れないと、救急車協定をし

てそれが入れるようになればもつといいのかなと

思ひますけれども、最新の医療、普天間の方に

移つていつた病院が施設も最新のものになつてい

るだろうというふうに思いますから、そういうふう

ことが解決できれば非常にいいのかなと、こうい

うふうにも思つております。

○委員長(岸信夫君) 以上で参考人に対する質疑

は終了いたしました。

参考人の皆様に御礼の御挨拶を申し上げます。

参考人の方々には、長時間にわたり貴重な御意

見をお述べいただきまして誠にありがとうございました。委員会を代表し厚く御礼を申し上げます。

(拍手)

本日はこれにて散会いたします。

午後三時六分散会

平成二十四年四月十日印刷

平成二十四年四月十一日発行

参議院事務局

印刷者 国立印刷局

P